

掲示板のことば

えらび きらい
見捨てる
我々の心
えらばず きらわす
見捨てる
如来の心

2020. 04

この言葉、2016年12月以来の2度目の登場です。新型コロナウイルスの脅威が世界を席巻している今、改めて僕のところに響いてきたからです。

この言葉は、およそ30年前、私が京都の大谷専修学院という、真宗大谷派の教師養成のための全寮制の学校に通っていた時、当時の学院長でいらした、竹中智秀先生がよくおっしゃっていた言葉です。

今、コロナウィルスはもちろん怖いです。薬がありませんし、年齢を問わず重症化する可能性があります。でも、僕が恐れていることは他にもあります。それは、ウィルスを恐れるあまり、僕たちに「選び、嫌い、見捨てる」ところが表面化してくることです。それによって僕たちが、感染の恐れがある場所や物、コミュニティまでも嫌い、大切に会うべき「人間」を差別してしまうことです。

竹中先生は、阿弥陀如来という仏さまは、いのちある者を決して選ばず、嫌わず、見捨てることのない仏さまなのだとされていました。そして、いつでも、どこでも、誰にでも、その願いを呼びかけ続けているのだと、おっしゃっておられました。しかし悲しいことに、僕たちの現実、その阿弥陀如来の願いに背かざるを得ないような社会の中で生きているのです。

今、このような時だからこそ、仏の教えにわが身をたすね、大切ないのちを傷付け合うことなく生きて往く道を求める者となることを願わずにおれません。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹